ぬぎかふる袖をつたへてふぢごろもみるも涙のたより也けり

〔平治物語二〕義朝野間下向事附忠宗心替事

義朝略○中軈テ湯殿ヘ入給ヘバ、三人ノ者○橘七五郎、瀾七兵衛、濱田三郎、隙ヲ伺ニ、金王丸御劔ヲ持テ御垢ニ參ケレバ、都テ可討樣ゾナキ、程經テ御帷子進セヨト云ヘ共人モナキ間、金王丸腹ヲ立、走出ケル其隙ニ、○略下

〔明月記〕建仁三年十二月十日、宇治之間事、問有長朝臣少々散不審、○略中

御寢所間、○略中其傍一間懸御直垂二具、唐物御直垂、小袴白綾紺唐綾等二、小袖御大口等有之、小湯巾、御湯帷加之、○略中

風爐傍爲御湯殿、居船、御湯殿南爲公卿湯殿、居船置湯帷少々、

〔吾妻鏡四十九〕正元二年三月廿八日乙未、和泉前司行方、持參御息所御服月充注文於御所、將軍家○宗尊覽之、

正月分○略中

御明衣二　今木二具

〔君臣言行錄二〕志津ガ嶽ノ軍ハ秀吉一代ノ勝事、蟹江ノ軍ハ、東照宮御一世ノ勝事ト也、○略中東照宮ハ敵瀧川等蟹江ノ城ヘ取籠ルヨシノ注進ヲ聞召、沐浴シテ在マシヽガ、湯衣ヲキナガラ御馬ヲ出シ給フ、跡ニ從ヒ行者井伊兵部計ナリ、○略下

〔武道傳來記六〕毒酒を請太刀の身

角之丞は水風呂に入りながら此體を見て、言葉をあはせ、母親に刀給はれといへるに、○略中母親浴衣をうちきせ、いさぎよくすべしといさめて、簾の内に見物して、○略下

〔北里十二時〕巳時

かたみにゆぶねの口にかゞまりゐて、あかかきながしつゝいへることよ、○略中まろがもとなる